

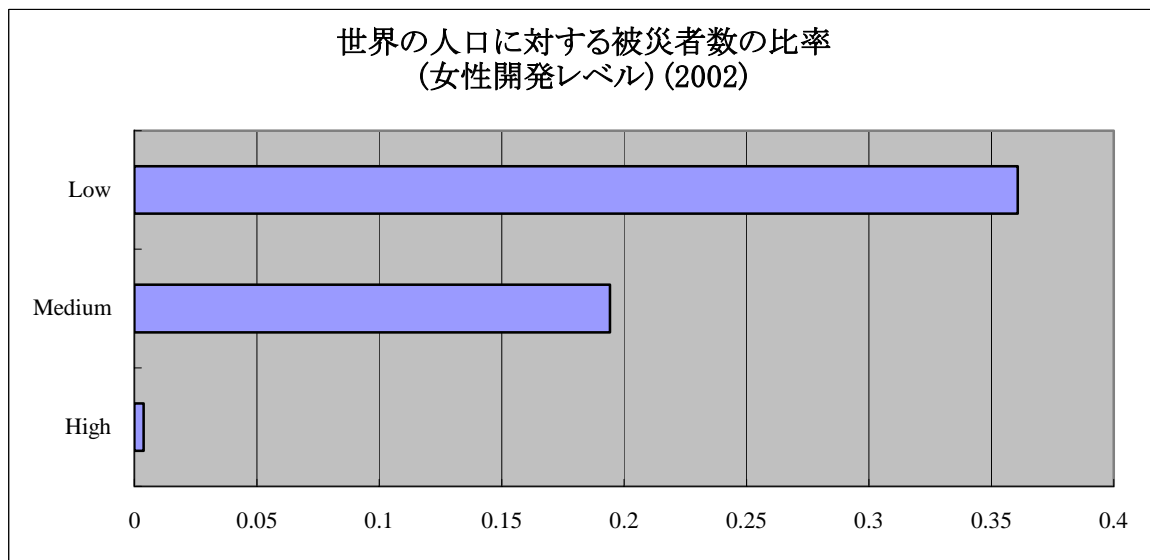
2.2 ジェンダー問題と自然災害のインパクト

前のセクションでは、人間開発レベルと自然災害の与える影響について見てきたが、そのような問題と共に、ジェンダー問題との関連について考察するのも極めて大切である。ここでは一般の人間開発指標から抜き出した女性の人間開発指標を使い、災害の特徴と関連させて見ていくことにする。図 11、12 が示すには、女性の人間開発レベルが低い国々での被災者数の割合は、女性の人間開発レベルが高い国に比べて、非常に高くなっている。これは前述の人間開発指標における分析と同じ傾向を表している。この分析により、防災分野において、ジェンダー問題を取り入れた計画作りや災害軽減対策に重点をおく必要があることがわかる。

一般的に、ジェンダーによって直接的にしる間接的にしる、災害後の対応が決定される。また、女性は災害の社会的影響に打撃を受けやすいことがわかった。このような分析から言えることは、女性は活動的で、優秀な災害対応者であると認識されながら、一方では無力な被害者とみなされおり、防災計画に適切なジェンダー問題が盛り込まれなければ、女性が災害発生後の救援活動で、活躍してもらうのは、大変難しいということである。

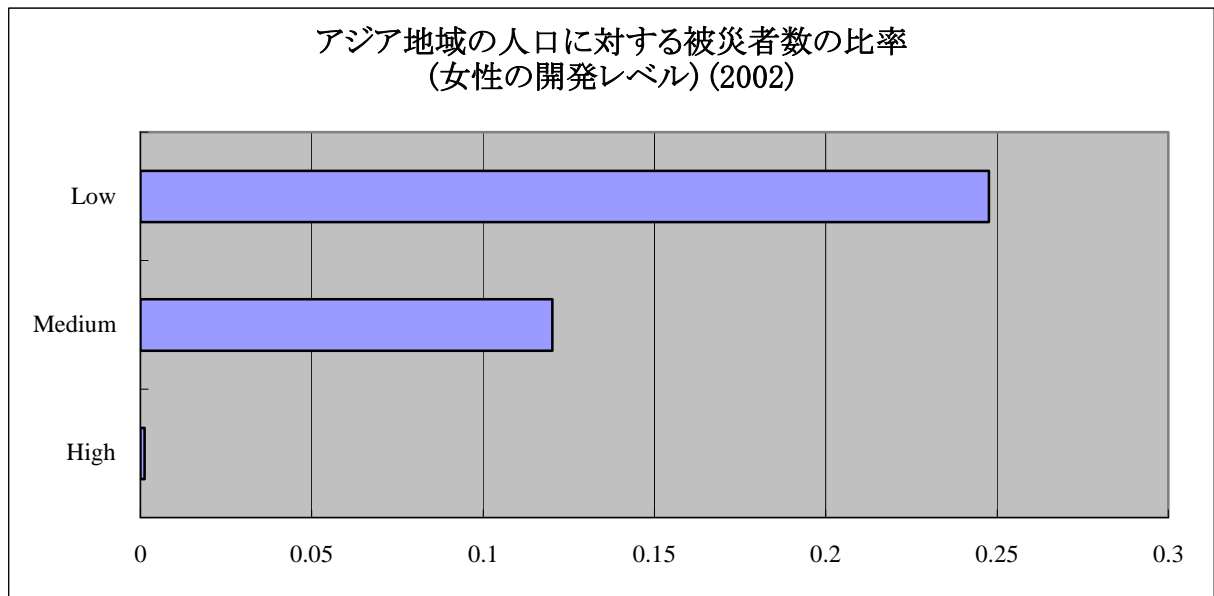
特にアジア地域における後発発展途上国の社会・文化的、経済的な側面の構造を見てみると、開発活動への女性の参加は重要であることがわかる。防災や危機管理活動は、開発戦略の一部として組み込まれるべきで、ジェンダーの不偏性と女性の参加を保証することが必須である。

図 11



出典：ADRC（アジア防災センター・日本）、CREDEMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）、UNDP

図 12



出典：ADRC（アジア防災センター・日本）、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）、UNDP